

東京都 スポーツ推進委員だより

第105号

(一社)東京都スポーツ推進委員協議会

2015年 3月31日

編集：情報委員会

社員総会



平成27年度活動方針・事業計画の概要

【方針】

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催まで、残すところ5年余となりました。トップアスリートの活躍の場であるオリンピック・パラリンピックを契機に、運動やスポーツ、健康づくりへの関心が高まる可能性があります。2020年に向けて、スポーツをする・観る・支える人、競技の魅力や醍醐味を知るサポーターを増やしていくことが求められています。

スポーツ推進委員として、より多くの人々がスポーツに親しむための環境を整備するとともに、スポーツには人と社会を育む力があることを伝えていく必要があります。

また、2020年には先例のない超高齢化社会を迎えます。日本は既に平均寿命も健康寿命も世界的には高い水準にあります。医療費・介護費の軽減など、社会全体として取り組むべき課題が山積しています。みんなが健康でアクティブに暮らせる社会づくりを目指すには、スポーツを推進するためのプロセスデザインと人動かし行動してもらうコミュニケーションデザインが大切なポイントと考えています。

さらに、東京都では、2014年12月、世界一の都市・東京を目指して策定した「東京都長期ビジョン」において、「東京都スポーツ推進計画」を踏まえ、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、成人の週1回以上のスポーツ実施率70%を達成し、スポーツが都民のライフステージに定着するとともに、障がいのある人もない人も共にスポーツに親しむ社会の実現を目指すこととしています。

このような状況のもと、地域のスポーツ活動におけるスポーツ推進委員の役割の重要性が増すなかで、地域のスポーツ環境の整備及び住民のスポーツニーズに的確に応えるためには、その時代に相応しい知識とスキルの習得が不可欠なことは自明の理であり、研修事業はスポーツ推進委員の資質向上を図るうえで重要な事業であります。

つきましては、(一社)東京都スポーツ推進委員協議会は東京都と連携・協力を密にして、今年度も地域ス

ポーツ支援研修会や課題別研修会など、各種研修会の開催及び障がい者スポーツの推進に取り組んで参りますので、ご理解ご協力の程、よろしくお願ひします。

以上の方針に基づき、本年度の事業は次のとおりとします。

【会議】

- 社員総会・・・5月23日(土)、9月30日(水)
12月9日(水)、3月23日(火)
臨時総会・・・7月22日(水)
- 理事会・・・4月8日、5月13日、6月10日
7月8日、9月9日、10月14日
11月11日、1月13日、2月10日
3月9日
- 各委員会(女性委員会を含む)・・・随時開催
- 会長会・6月21日(日) 中野区産業振興センター(旧：勤労福祉会館)
- 監事監査・・・5月
- 表彰審査会・・・都スポ協事務所
4月：関東大会功労者及び都スポ協功労者
5月：全国大会功労者
- その他・・・特別委員会が必要に応じ随時開催

【事業】

1. 東京都共催事業(予定)

(1) 広域地区別研修会

・広域地区別研修会開催地区

	担当地区	期 日	会 場
1B	湊区	7月11日(土)	港区スポーツセンター
2B	北区	9月5日(土)	滝野川会館
3B	世田谷区	8月29日(土)	成城ホール
4B	練馬区	10月17日(土)	練馬区役所
5B	葛飾区	9月12日(土)	テクノプラザかつしか
6B	多摩市	9月12日(土)	多摩市立総合体育館
7B	福生市	11月14日(土)	福生地域体育館
8B	武蔵村山市	8月29日(土)	総合体育館会議室
9B	調布市	9月19日(土)	調布市グリーンホール
10B	西東京市	11月7日(土)	スポーツ・文化交流館
11B	大島町	11月28日(金)	アジュール竹芝

・ブロック責任者会議(28年度担当):9月16日(水)

(2)課題別研修会

研修会名	期日	会場
課題別研修会	11月21日(土)	多摩障害者スポーツセンター

(3)地域スポーツ支援研修会

研修会名	期日	会場
区部	1月23日(土)	高輪区民センター
市町村部	2月13日(土)	武蔵野公会堂
全域	2月27日(土)	なかのZEROホール

(4)初級障害者スポーツ指導員養成講習会

回数	期日	会場
①	8月1日(土)	障害者総合スポーツセンター
②	8月2日(日)	新宿区立四谷中学校
③	8月9日(日)	新宿区立四谷中学校
④	8月22日(土)	多摩障害者スポーツセンター
⑤	8月23日(日)	新宿区立四谷中学校

2. 自主事業

(1)研修事業

研修会名	期日	会場
ニュースポーツ研修会	未定	未定
実務研修会	未定	未定
女性委員会企画研修会	12月5日(土)	新宿区立四谷中学校
宿泊研修会	3月6日(日)~ 7日(月)	フォレスト箱根

(2)「東京都スポーツ推進委員だより及びホームページ」の配信

(3)調査研究・資料収集

(4)顕彰(スポーツ推進委員の表彰)

- ①(一社)東京都スポーツ推進委員協議会の表彰(功労者、感謝状、特別表彰)
- ②(公社)全国スポーツ推進委員連合の被表彰候補者の推薦(団体と個人)
- ③関東スポーツ推進委員協議会の被表彰候補者推薦

3. 派遣事業

(1)関東スポーツ推進委員研究大会

6月5日(金)~6日(土) 千葉県千葉市

(平成26年度第4回社員総会決定)

(2)第56回全国スポーツ推進委員研究協議会

11月12日(木)~13日(金) 愛媛県松山市

(3)生涯スポーツ・体力づくり全国会議 2016

平成28年2月上旬 福島県郡山市

(4)スポーツ推進委員リーダー養成講習会

平成28年2月中旬頃 (予定)

【協力事業】

1. 東京都(予定)

①第1回 東京都生涯スポーツ担当者研修会

平成27年6月頃 未定

第2回 東京都生涯スポーツ担当者研修会

平成28年1月頃 未定

②障害者スポーツセミナー

平成28年3月5日(土)

③東京マラソン2016・大マラソン祭り2016

平成28年2月28日(日)

2. 新宿シティハーフマラソン(予定)

平成28年1月24日(日)

3. (公社)全国スポーツ推進委員連合

(1)機関誌「みんなのスポーツ」の購読促進

(2)「スポーツ推進委員手帳」「スポーツ推進委員ハンドブック」の普及推進

(3)シンボルマークのグッズ(ジャンパー・ポロシャツ・バッジ・ペンダント・ネクタイ・タイピン・ピンブローチなど)及びCD「健康たいし音頭」等の普及推進

(4)賛助会員としての協力促進

(5)その他関連事項等

【その他】

1. (公社)全国スポーツ推進委員連合理事会・総会

平成27年6月4日(木)

平成28年3月

2. 関東スポーツ推進委員協議会理事会

平成27年6月5日(金)

平成28年2月

3. 関東スポーツ推進委員研究協議会女性委員会

平成27年5月15日(金)

平成28年1月23日(土)~24日(日)

社員総会



第 4 回 社 員 総 会

平成 27 年 3 月 25 日（水）、午後 6 時 30 分より武蔵野公会堂において一般社団法人東京都スポーツ推進委員協議会第 4 回社員総会が出席者 36 名のもと開催されました。

冒頭、阿部正幸会長より「1 年を振り返って様々な研修事業を皆様の協力を頂き滞りなく終了することが



出来ました」と挨拶をいただきました。続いて東京都オリンピック・パラリンピック準備局スポーツ推進部調整課長関口

尚志様から「東京マラソンへの協力についてお礼の言葉があり、又、地域スポーツ支援研修会も多くの成果を挙げ終了することが出来ました」とご挨拶がありました。



議 事

(1) 報告事項

- 1) 理事会報告(第 8 回/第 9 回/第 10 回)
- 2) 各委員会報告(企画総務・研修・情報・女性)
- 3) 財務報告(会費・賛助金他)
- 4) 広域地区別研修会報告

- 5) 東京都障害者スポーツセミナー・課題別研修会
- 6) 地域スポーツ支援研修会(区部・市町村部・全域)

7) 新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン

8) 生涯スポーツ体カづくり全国会議 2015

- 9) 第 2 回女性スポーツ勉強会「知っているようで知らない女性スポーツについて学んでみよう」



10) 全国スポーツ推進委員連合理事会

11) 関東スポーツ推進委員協議会理事会

12) 東京マラソン・大マラソン祭り事業

13) 全国スポーツ推進委員連合理事会・総会

以上の報告事項があり了解されました。

(2) 協議事項

- 1) 平成 27 年度事業計画(案)
- 2) 平成 27 年度予算(案)
- 3) 副会長代行

全体協議の結果、全ての協議事項は提案通り承認されました。

(記事 佐々木雅士 情報委員会 多摩市)

(写真 才郷正次 情報委員会 東大和市)

研修会



第 2 回東京都生涯スポーツ担当者研修会

平成 27 年 1 月 12 日(月・祝)、都庁都民ホールにて平成 26 年度第 2 回東京都生涯スポーツ担当者研修会が行われました。講師は NPO 法人クラブパレット理事兼 GM であり一般社団法人 地域スポーツシステム研究所 所長 榎敏弘氏。テーマは「協働する地域スポーツクラブと自立化のアイデア」でした。



マネジメントなどの著書を引用し理念や考え方、スポーツクラブへの情熱など榎氏の経験をもとに様々なお話をしてくださいました。

ご自身関わっているクラブパレットのこれまでの

活動や経営状況など、具体的な内容も多く、地域スポーツクラブの運営に関わるスポーツ推進委員にとって大変参考となるお話でした。

民間のスポーツクラブと地域スポーツクラブの違いや、地域スポーツクラブとしてのプロダクト(売り物)は何か、どんな利点を提供できるのかなど視点を変えてみると、スポーツクラブの会員増加や経営の状況にも変化が期待できるのではと思いました。



(記事・写真 松田文子 情報委員会 豊島区)

研修会



地域スポーツ支援研修会（区部）

平成27年1月31日（土）、高輪区民センターにおいて平成26年度地域スポーツ支援研修会（区部）を開催しました。参加者は、スポーツ推進委員と行政職員で142名でした。

講師に独立行政法人日本スポーツ振興センター、タレント発掘・育成コンソシアム専門スタッフの豊田太郎氏を迎え、「ライフステージに応じたスポーツ活動支援」～発育・発達期におけるゴールデンエイジの特徴と指導上の留意点～をテーマに行われました。



ゴールデンエイジとは、10～12歳のことを指し、スポーツをする上で、動作習得に有利な時期であると言われているそうです。その時期には、一つのスポーツにかたよることなく、いろいろな運動をする事が大事であり、ゴールデンエイジ期のスポーツ活動を充実させるために、日常生活や学校生活の大事さ、感謝の気持ちを持つ事の大切さも伝える事によりスポーツ活動と日常生活の相互関係において相乗効果が生まれる事、また近年のスポーツにおいてもグローバル化が進んでおり、環境、人、情報、

物などスポーツを通じて国際感覚を養う事の大事さが語られました。

続いて、来年度ブロック研修会当番区の代表、今野由理子氏（港区）、大竹秀樹氏（北区）、玉手淳一氏（世田谷区）、太田雄三氏（練馬区）、山田隆昭氏（葛飾区）の皆さんが登壇し、テーマを「ゴールデンエイジの活動支援を考える」とし、情報委員会副委員長の佐々木雅士がコーディネーター役でトークセッションが行われました。

各地区の取り組みや、子ども達への指導方法などが語られました。この研修でゴールデンエイジにおけるスポーツ活動は、生涯を通じた中で、とても重要な時期ということがわかりました。

私達、スポーツ推進委員もその時期を見逃すことなく、質の良い指導が出来るよう努力を重ねていく事が必要だと感じられる研修会となりました。

（記事 岡あけみ 情報委員会 羽村市）

（写真 才郷正次 情報委員会 東大和市）



研修会



地域スポーツ支援研修会（市町村部）

平成27年2月14日（土）、武蔵野公会堂において平成26年度地域スポーツ支援研修会（市町村部）を開催しました。参加者は、スポーツ推進委員と行政職員で188名でした。

講師に東京女子体育大学教授の秋山エリカ氏を迎え、「ライフステージに応じたスポーツ活動支援～発育・発達期におけるゴールデンエイジの特徴と指導上の留意点～」をテーマに行われました。

まず、「子どもたちの心：自信のなさが生み出すもの」に関して、「ミスの原因、問題点は何かを意識して競技することで、互いに声かけをするようになる」、「指導者の立場は待つこと。失敗は叱るのではなく、課題を与えミスの原因



を自分たちで考える時間をつくる」といったことの重要性を指摘するとともに、「子供たちが自分で解決したことは持続する」ということを主張されました。

更に、「自分には価値がないと思っていることへの接し方」、「努力するけど技術がない人・努力しない天才への接し方」、「なぜ？自分だけこんな思いをするのか？と思う子への接し方」、「目標設定が低い子への接し方」など示唆に富むお話を頂きました。

質疑応答では秋山講師から「子どもの頃は必ず遊びを入れる」、「他種目のスポーツを体験させる」、「家族で出かけることを優先させる」、「無駄な気持ちを持たせない」、「なぜ？そうなったか子ども自身が原因をはっきりさせる」といった指摘がありました。また、「全員に声がけするか」との質問に対しては「20%（できる子） 60%（普通な子） 20%（できない子）」という2・6・2の法則があり、6の子をほめて手本にさせる。出来ない子2のもしかしたらの変化が全体の底上げにつながる」という話がありました。

参加者からは、学問的な難解な話ではなく、平易な言葉

で説得力があったといった感想が寄せられました。また、「すぐにでも実践でやってみたい」「指導者としての心得、子どもが主体となり、自らの問題解決力を養うことの大切さを学びました」「子ども達への指導が変わりそう」といった声がありました。

続いて、来年度ブロック研修会当番区の代表、内藤好美氏（多摩市）、飯田 忍氏（福生市）、宮崎正巳氏（武蔵村山市）、竹谷正明氏（調布市）、宮崎 紳氏（西東京市）の皆さんが登壇し、テーマを「ゴールデンエイジの活動支援を考える」とし、情報委員会委員長の中川義英がコーディネーター役でトークセッションが行われました。

多摩市の「みんなで走ろう 50m/100m走」では、大学生による模範走行とミニクリニックが好評なことや、ポスターも市内小学校に依頼し会場に掲示していることの紹介がありました。福生市の「するスポーツの推進・スポーツ好きな子供の育成」では、三つの施設で9種目実施しており、場所・環境を整え、運動する機会を増やす事を狙っているそうです。武蔵村山市の「スポーツ都市宣言」では、ニュースポーツ体験教室、老若親善試合、少年・少女サッカー・ドッジボール大会、総合型地域スポーツクラブによる各種教室体験会等の紹介があり、気軽にスポーツに取り組む機会を設け、楽しさを感じてもらう場を増やし継続する事の大切さが語られました。調布市からは「ディスクドッジ大会」を継続して取り組み、各小学校へスポーツ推進委員が出前講座として普及を図っていることの紹介があり、レベル向上と初心者参加意欲の持続、大会に特化せず、他種目への切り替え・体験が必要なことが語られました。西

東京市からは「小学生ドッジボール大会」をはじめとした出張事業の紹介があり、小学校と連携しながら実施し、子供の自己肯定感を損なわせないことに配慮し、環境設定する側の認識に注意していることが語られました。

トークセッションを通し、行政等と連携し授業時間内に活動した事、夜の時間帯に活動を持って行って成功した例、学校に出向くこと、親子で体験できるスポーツやニュースポーツの実施が大事な要因となっていること、働きかける姿勢が大事なことなどが打ち出されました。



が打ち出されました。一方、学校との連携については難しい問題が多く、それをどのようにクリアしていくのか、スポーツ推進委員は土・日の活動にしばられがちで、どうしてもイベント企画、集客による評価になってしまいがちなこと、日常のスポーツ活動の広がりによつてどのようにつなげていくのかといった課題も浮き出てきました。

私達、スポーツ推進委員もその時期を見逃すことなく、質の良い指導が出来るよう努力を重ねていく事が必要だと感じられる研修会となりました。

（記事 白鳥敏子 情報委員会 北区）

（写真 才郷正次 情報委員会 東大和市）

研修会



地域スポーツ支援研修会（全域）

平成27年3月7日（土）新宿文化センター小ホールにおいて地域スポーツ支援研修会（全域）が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、スポーツ推進委員、行政担当者合わせて125名の方々にご参加いただきました。

講師は株式会社ルネサンス 取締役常務執行役員ヘルスケア事業本部長高崎尚樹氏、テーマは『ライフステージに応じたスポーツ活動支援』～働き盛り世代を中心として～と題し、スポーツ実施率が最も低いとされる働き盛り年代のスポーツ実施の状況や実施率向上へ向けた取り組み方など具体例を挙げてお話しいただきました。スポーツと何かをコラボさせてのイベント開催や、隙間時間を見つけての運動などすぐに取組みそうな事例に思わず納得してしまいました。



トークセッションではコーディネーターに順天堂大学黒

須充氏、パネリストには（公財）東京都レクリエーション協会副会長丸山正氏、株式会社クレメンティア代表荒尾裕子氏、株式会社ルネサンス取締役常務執行役員ヘルスケア事業本部長高崎尚樹氏の御三方を迎え、それぞれの分野から働き盛り世代の様子を伺い、スポーツ実施の必要性を強く感じました。また、東京オリンピック・パラリンピックへ向け国策として各方面でスポーツへの取り組みがなされていて、スポーツ推進委員としての役割も考えさせられました。



（記事・写真 松田文子 情報委員会 豊島区）

全 国



生涯スポーツ・体力づくり全国会議

平成27年2月6日(金)、岩手県盛岡市のホテルメトロポリタン盛岡を会場として、文部科学省、生涯スポーツ・体力づくり全国会議実行委員会が主催した「生涯スポーツ・体力づくり全国会議2015」が開催されました。今回の全体テーマは、「持続可能なスポーツ環境の創出に向けて」でした。

■基調講演は「スポーツの未来を考える～オリンピック・パラリンピックを超えて～」をテーマとして、講師に為末大氏(一般社団法人アスリートソサエティ代表理事)を迎えておこなわれました。氏は競技に打ち込む独自のスタイルが感銘を呼び「侍ハードラー」または「走る哲学者」といわれている。

◎講演内容(抜粋)

・為末氏は広島県佐伯市の地域スポーツクラブ出身(陸上競技)。近年、クラブ出身者が指導者としてクラブに戻ってきている。(好循環)

・GDH(GNH)国民総幸福量:スポーツを通じて豊かな日本にしていくことが大切である。

・スポーツの力とは:限界を超える力、アスリートを目指すなど、地域からヒーローが出る。また、アスリートに勇気をもらえる。

・アスリートのセカンドライフについて:アスリートは社会の資源であるので、アスリートの経験を社会に還元することは大きな価値となる(東日本大震災時など)。よって、アスリートのセカンドライフの環境整備が必要である。

・2020年のレガシーとして、日本は世界一元気な国を目指したい。

■シンポジウムは「スポーツレガシーの創出に向けて」をテーマに、山本浩氏(法政大学スポーツ健康学部学部長/教授)のコーディネートのもと、パネリストに石井理恵氏(リ・ポーンはすだ総合型スポーツクラブ副会長)、為末大氏(一般社団法人アスリートソサエティ代表理事)、間野義之氏(早稲田大学スポーツ科学学術院教授)を迎えおこなわれました。

◎シンポジウムでは、

・ビックイベントの魅力とは、一世代の大勝負、高いレベルの競技、かけがえのない選手やチームを観戦できること。

・世界中の人々が集まるオリンピック・パラリンピックは、全員が活躍する社会づくりのきっかけとするのに適したイベントである。

・国民の自己実現やモラル・所得の向上につなげるとともに、人口減少・高齢化のもと、経済成長や国民負担(社会保障費)の軽減等、社会全体としての課題解決も進めたい。

・2019年ラグビーワールドカップ、2020年オリンピック・パラリンピック競技大会、2021年ワールドマスターズゲームズの3年間を、「ゴールデン・スポーツ・イヤーズ」と捉え、地方と都市が抱えた積年にわたる課題の解決に向けて、ポジティブなしガシー計画を創り、そして残していくといった話がありました。

■分科会

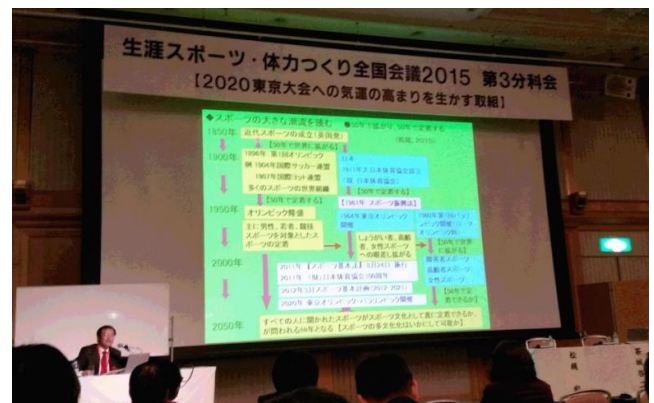
・第1分科会「スポーツの高潔性について考える」

・第2分科会「今、東日本大震災復興のためにスポーツができることを考える」

・第3分科会「2020年東京大会への機運の高まりを生かす取組」

・第4分科会「障がい者スポーツへの理解・啓発について考える」

私は第3分科会に参加しました。コーディネーターは都スポ協の研修でもお世話になっている松尾哲矢氏(立教大学コミュニティ福祉学部教授)。



◎パネリストとその発表要旨は次の内容でした。

・松縄宏氏(東京都オリパラ準備局大会準備部連絡調整担当課長)「2020年東京大会に向けた各自治体との連携について」。

＜2020年の準備において、都内区市町村を含め、全国の自治体との連絡調整とともに、開催都市としての責任を果たす。また、被災地支援事業を推進したい＞

・茶城啓二氏(長野県教育委員会事務局スポーツ課体育スポーツ振興係係長)「1998年長野冬季オリンピック後の施設活用状況と2020年東京大会を見据えた取り組み」。

＜長野オリンピックが遺したものは、競技力の向上、プロスポーツの誕生、スポーツボランティア活動＞

＜長野オリンピック参加国を中心に交流し合った「1校1国運動」は、子どもたちに相手国の地理や歴史を勉強し理解を深め、国際交流の意義と平和の大切さを学んだ＞

・齋藤道子氏(NPO法人うつくしまスポーツルーターズ事務局長)「スポーツボランティアの裾野拡大に生かす取

組」。

<スポーツボランティアの活動例と福島スポーツ振興基金の支援について>

(総括) 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の開催決定により、国民のスポーツ活動への機運が高まってきている。分科会では、施設活用、人材育成等の観点から、大会開催への機運の高まりや開催後のレガシーとと

もに、スポーツ推進委員として、アイデアを出し合いどんなレガシーを残せるかが大切であると感じた。

さらに、参加者によるグループディスカッションの機会を設け、2020年大会の機運の高まりを活用した取り組みについての検討を深めた。

(会長 阿部正幸)

勉強会



第2回女性スポーツ勉強会

2015年2月6日(土) 13時~18時30分、渋谷の東京ウィメンズプラザにおいて約240名が参加して第2回女性スポーツ勉強会(知っているようで知らない女性スポーツについて学んでみよう!)が開催されました。主催はモン・スポ(NPO法人バレーボール・モンリオール会)および総合型地域スポーツクラブ女性ネットワーク(仮称)が一緒になりあたっていました。また、(一社)東京都スポーツ推進委員協議会女性委員会のほか、順天堂大学女性スポーツ研究センターおよび女性アスリート健康支援委員会(がんばれ!やまとなでしこプロジェクト)が協力組織として加わりました。

会場には有森裕子さん、増田明美さん、山口香さん、など五輪メダリストや女性トップアスリートの皆さんが大勢来場されていました。勉強会では、「女の子が運動好きになるために」、「女性の身体とスポーツと栄養」など専門家からお話を聞き、またシンポジウムでは、室伏由佳さん、岡崎朋美さん、池田(旧姓矢野)広美さんらが登壇し「女性アスリートの悩み」と題し、女性アスリートが抱える身体と環境の問題その解決方法を探りました。

池畑亜由美先生の「女性の身体と栄養」では、バランスよく食べることの大切さを伝えられ、会場にいらした、有森裕子さんからは、「私は、骨密度が高く、食生活によるもの、母親に感謝しています。」との言葉がありました。シンポジウムでは、室伏由佳さんからは、女性トップアスリートも病気や身体とも悩みを抱えながら競技生活を送っていること、岡崎朋美さんからは、出産後の競技生活環境について話され、皆さんがご苦労されながら競技生活を送られていることがわかりました。日本では、その様な悩みを解決していく機関が遅れている様です。相談ができる場所、指導者の理解、女性の指導者やスタッフの必要性、産婦人科のスポーツドクターの増員など早い対策が必要だという意見がありました。

ゲストスピーカー講演では、杉山美沙子さんからは、錦織圭選手や、杉山愛選手などがスランプにおちいった時に女性の目線でどう支えたか興味深いお話が聞けました。子



ども達にもっとスポーツをというところでは、自分の意見をきちんと伝える、コミュニケーション力がある、目標を設定し継続、他人に感謝それを言葉や行動にできる、思考力、判断力、観察力、決断力生きる力を持ち発揮することが出来るが、高い人間力に通ずるということです。

この勉強会で女性スポーツについて理解できました。2020年東京五輪に向けて多くのメダルを目指すとともに、女性スポーツの環境整備も整っていくことを望みます。

今回、都スポ協の支援のもと飯ヶ谷美恵(足立)・島田泰子(墨田)・岡あけみ(羽村)・繁田ゆみ子(港)・稲垣美保(中野)・松田文子(豊島)・田村真理子(西東京)・白鳥敏子(北)・鈴木ゆみ江(品川)勝又朝子(墨田)の10名が参加しました。この様な機会を与您いただき感謝いたします。とても有意義な時間を過ごすことができました。

(記事 岡あけみ 女性委員会 羽村市)

(写真 田村真理子 事務局長 西東京市)

東京マラソン



東京マラソン2015

平成27年2月22日(日)の小雨の降る中、東京マラソン2015が開催されました。今年も定員の10倍を超える申し込みの中から35,797人(フルマラソン35,310人、10km487人)が参加し、34,528人が完走(完走率96.5%)しました。今年も42.195kmを走るフルマラソンのコースは、都庁前をスタートし、皇居横を通って東京タワーに近い品川駅を折り返し、銀座、日本橋、浅草を回り、豊洲、有明を巡り、東京ビッグサイトがゴールです。

フルマラソンの結果は、男子はエチオピアのエンデショー・ネゲセ選手が優勝し、日本人のトップは7位の今井正人選手、女子ではやはりエチオピアのベルハネ・ディババ選手が優勝し、日本人のトップは7位の扇まどか選手でした。車いすの部では、男子が洞ノ上浩太選手、女子は連覇となった土田和歌子選手が優勝しました。

渋谷区スポーツ推進委員協議会は品川ブロック(10区)と銀座・日本橋ブロック(6区)に分かれて担当することになり、私は品川ブロックのボランティアリーダーとしてコース整理員をしました。

仕事としてはコース上のランナーの安全確保、歩行者・応援団のコース侵入の監視でした。ISの日本人拉致殺害事件があった為「ランニングポリス」が初めて出動するなどありましたが、混乱なく終了することができました。

(記事・写真 天野長光 情報委員会 渋谷区)



大マラソン祭り



東京大マラソン祭り2015

東京マラソンの開催に合わせて行われる東京大マラソン祭りのプログラムの一つとして、「ファミリースポーツランド」が2月22日(日)、マラソンコースの42km地点に面した東京臨海広域防災公園で開催されました。

このファミリースポーツランドは、来場者にスポーツに触れる機会を創出し、参加体験型のプログラムとして展開されるもので、<防災×スポーツゾーン>、<観戦スポーツゾーン>、<障害者スポーツゾーン>、<ニュースポーツゾーン>、<キッズゾーン>でのイベントがおこなわれました。



東京都スポーツ推進委員協議会は<防災×スポーツ

ゾーン>での[BOSAI五種競技]に11名を派遣し担当しました。[BOSAI五種競技]は「キャタピラ煙避難」、「毛布で担架タイム」、「カエルおんぶ搬送」、「カエル水難救助」、「シャッフルチャレンジ競争」の5種目です。

また昨年は都スポ協でも担当したくニュースポーツゾーン>では各協会・連盟に協力して頂き「グラウンドゴルフ」、「スポーツ吹矢」、「ドッチビー」、「ラインクップ」、「スポーツチャンバラ」を運営しました。

集合時に小雨が降っており、天気予報では強風も予想され実施について心配をしましたが、全行程滞りなく行われました。BOSAI五種競技は、体験しながら防災知識を得るといって、とても良い競技でした。参加者の皆さんも楽しんで体験していました。こうした取り組みがスポーツ実施率の向上に繋がっていくことを期待し、今後も協力していきたいと考えます。

(副会長 岡田真由美)

編集後記 平成26年度最終の都スポだよりとなりました。今年度は通常の委員会の他に都スポの地域スポーツ支援研修会を情報委員会が担当しましたので忙しい1年であったと思います。

都スポだよりは締め切りから発行まであまり時間ありませんが、原稿も順調に集まり、中川委員長、情報委員会の皆さんのお陰で、都スポだよりを皆様のお手元に届けることが出来ました。

これからもお世話になるかと思えます。今後ご指導をよろしくお願いいたします。

(才郷正次 情報委員会 東大和市)

「都スポ協のホームページアドレスが www.tospokyo.tokyo に変わります。」変更をお願いします。

#####